ＥＳＤＧｓ通信　130号　手島です

「発信を続けて４年目にして成果」

2022年５月より厚木市では小・中学校においてＥＳＤカレンダーの活用を開始！

　　皆様、お世話になっております。台風16号の動きが気になりますね。さて・・・

以前よりＥＳＤ推進に熱心に取り組まれてきた神奈川県厚木市の高田ヒロシ議員さんから、

喜びの声が届きました。高田さんの４年越しの働きかけが実り、同市内の小・中学校全校（36

校）で、ＥＳＤカレンダーを活用していくことが市議会で明らかにされたそうです。

2021年９月厚木市議会の一般質問の映像を拝見すると、

（<http://atsugi.gijiroku.com/g07_Video_View.asp?SrchID=260>）

小林市長さんは「本市では中・長期的な視点としてＳＤＧｓの達成を位置付け…、ＳＤＧｓの理

念や目標を踏まえた施策を展開する」と話されていました。（映像の4分30秒～5分25秒）

また、曽田教育長さんは「ＳＤＧｓの理念を取り入れた教育課程の編成を行えるよう、研修を

進めている」と語られ（8分45秒～9分15秒）、それを受けた学校教育部長さんは、「ＥＳＤの

取り組みについては、現行の学習指導要領を理解し、実践する手段として有効と認識し、今

年度の校長会において教育目標、重点目標をＳＤＧｓのターゲット、ＥＳＤの８つのテーマを意

識して設定するように取り組んでいる。

今年度中に作成を始めていくが、その際、具体的なイメージとしてＥＳＤカレンダーを例示

し、来年5月末に第一案が出てくる予定」と話されています。（9分58秒～11分30秒）

　この答弁に至るまでに、高田議員さんは2018年8月、市の教育委員会に文部科学省国際

統括官付き専門官を招き、ＥＳＤ推進に関するレクチャーの中でＥＳＤカレンダーの話にもふ

れていただいていたそうです。（<http://www.hiroshi-takada.com/180816.html>）

　文部科学省の専門官が市の教育委員会にレクチャーに来るというのもあまり聞かないことで

すが、おいでいただくための手順・ご努力もあったことと拝察します。

その後、高田議員さんは一般質問で、ESDカレンダーと文部科学省の新学習指導要領に

ついて質問を行いました。新学習指導要領には前文が付き、そのキーワードは、「持続可能な

社会のための創り手」であることを強調。高田議員さんは、「１０年前の学習指導要領にはなか

った前文が付いたことは重要。その重要さは、法学に一定の理解がないと判らない。また、キ

ーワードが何かも判りにくい。小学校における英語教育などが報道され、肝心の持続可能な

社会のための担い手は報道されなかった」と私に述べていました。

　また、「カリキュラム・マネジメントの実現は、教科横断型に変えること。具体的には、ＥＳＤカ

レンダーを使って、各教員がご自分の授業は、ＳＤＧｓ、持続可能な開発目標のどこに当ては

まるのかを考えること」と議会で発言されています。

2018年頃の手島は、各地に広がる【旧態依然とした教育施策を変えようとしない教育行政】

に対しては、議員さん方に住民の代表として、議会の場でＳＤＧｓやＥＳＤの推進、あるいはそ

の具体策としてのＥＳＤカレンダーの導入を働きかけたり、強い要望をしたりしていただく必要

も感じておりました。

その頃に発信していた以下の資料等を参考にしながら、高田ヒロシ議員さんもお取り組みを

進めてくださったのかと思います。今読み直すと過激な表現もありますが、ご容赦ください。

[**ESD, SDGs を推進する手島利夫の研究室 (esd-tejima.com)**](https://www.esd-tejima.com/newpage4.html)・・・2018年末頃まで

に発信していた「議員さん出番です。日本の教育改革に向けて、ご尽力ください」な

どの資料をまとめた【持続可能な社会の創り手を育てる教育への改革を進める教育委

員会や議員の方への手引きのページ】が開きます。

厚木市では教育振興基本計画の中にＳＤＧｓを位置付け、それを踏まえて、各学校が教育

課程の編成を進められるように研修の充実を図り、各学校が地域の実情を踏まえて指導計画

を立てたりできるように、余裕をもった進め方を認めているようです。これならば、ＥＳＤの実践

が各校に定着し、発展していくのではないかと期待が高まります。ＥＳＤの推進を目指して発

信を続けてきた成果がこのような形で、厚木市教育委員会様の前向きなお取り組みとして現

れてきていることが伝わってきて、大変にうれしいご報告でした。

以下は、高田ヒロシ議員さんがお取り組みになってきた、ＥＳＤの推進やＥＳＤカレンダーの

普及・活用等に関するこれまでの議会でのご質問やそれに対するご答弁を時系列で書き出し

ていただいたものです。議員さんによる教育改革への働きかけと、それに真摯に対応し続けて

きた市や教育委員会のお取り組みの事例として、価値ある記録になるかもしれませんね。

**赤い文字は**「ＥＳＤカレンダーやそれにつながる内容等の部分」です。





神奈川県厚木市議会

2018年9月議会一般質問より

**高田　浩議員**　2018年度から2020年度までの厚木市教育大綱はよくできていると思われま

す。ただし、一つだけ気になる点があります。基本理念は、未来を担う人づくりとあり、持続可

能な開発のための教育と合致しておりますが、10項目ある基本方針には、**カリキュラム・マネ**

**ジメントや教科等横断的**な指導の充実という視点が見受けられません。このままでは、従来ど

おりの教科分断的な指導となります。新学習指導要領の前文に掲げられた持続可能な社会

のための担い手づくりには至らないかと思われます。

　文部科学省の新学習指導要領に基づき、**教科等横断的な指導の充実といった視点**の追加

を検討してはいかがでしょうか。

**佐後佳親学校教育部長**　厚木市教育大綱、それから教育委員会では教育委員会の目標が

ございます。その中で、まずは未来を担う人づくりというところに関して言うならば、これからの

持続可能な社会を目指す、その担い手をつくっていくという概念において、この基本目標、大

綱の中においてＥＳＤの理念が十分入っていると感じているところでございます。

　ただ、今お話がありましたように、**教科等横断的な、あるいはいろいろな分野と連携しながら**

**教育を進めていくという観点**につきましては、現在の目標の中でもその部分は十分あると思っ

ておりますが、改めて総則等にも掲げられたことも受けまして、その点については意識して取り

組んでまいることも必要かと考えております。

2019年9月議会一般質問より

**★**以下は、登壇における発言（質問の趣旨を述べる場面）

文部科学省国際統括官付専門官が８月16日、厚木市教育委員会においでくださりました。

持続可能な開発のための教育について一から話していただくためであります。この日、厚木市

教育委員会は20人ほど出席し、愛川町と清川村の議員も出席いたしました。

　平成29年３月に告示された学習指導要領には前文がつきました。キーワードは、持続可能

な開発のための担い手づくりであります。10年前の学習指導要領にはなかった前文がついた

ことは重要な点であります。しかしながら、小学校における英語教育などが報道され、肝心の

持続可能な社会のための担い手が報道されませんでした。そのため、新学習指導要領に前

文がついたことがどれだけ全国的に知られているか疑問であります。

★以下は、再質問

**高田　浩議員**　改めてお聞きいたしますが、新学習指導要領の中で何が最も重要であると理

解していますでしょうか。

**佐後佳親学校教育部長**　新学習指導要領におきましては、新しい改訂の中でさまざまな柱が

ございます。高田浩議員がおっしゃったとおり、今回初めて前文がつきました。その中で、持

続可能な開発のための担い手ですね。持続可能な社会のつくり手となることが期待されるとい

う文言が入ってくることから、全体を通してそのような考え方が入っていると考えております。

　具体的に申し上げますと、例えばこれからの予測困難な社会において、身につけた知識、

技能をどのように使ってどのように社会・世界とかかわりを持ち、よりよい人生を送っていくかと

いうこれから養成すべき資質・能力の柱についても触れられております。それから、**それらの**

**知識をもとにしまして、課題解決のために知識、技能を関連づけることによって活用していく**

**教科横断的なカリキュラム・マネジメント**の重要性、これらも今回の学習指導要領にうたわれて

いる内容として重要なものと捉えております。さらに、社会に開かれた教育課程ということで、

その部分につきましても今回の改定の重要な柱であると認識しております。

**高田　浩議員**　持続可能な社会のつくり手が示された背景を一言で言えば、グローバル化の

影響です。世界で日本が生き残っていくためであります。そのために、生きる力という言葉が

学習指導要領で示されています。知識の量をふやしてテストでいい点数がとれる児童・生徒、

イコール自分で物を考え出せる人間だとは言えません。**カリキュラム・マネジメントの実現は、**

**これまでの教科分断型発想から教科横断型に変えることであります。具体的には、ＥＳＤカレ**

**ンダーを使って、各教員がご自分の授業は、ＳＤＧｓ、持続可能な開発目標のどこに当てはま**

**るのかを考えることであります。**見解をお尋ねいたします。

**佐後佳親学校教育部長**　先ほどお話ししたとおり、教育課程を実際に効果的に実施するため

の**カリキュラム・マネジメントの必要性**については、今お話があったように**教科を分断的に捉え**

**るのではなくて、横断的に捉え、統合していくということの観点から大変重要なものだ**と考えて

おります。

**ＥＳＤカレンダー**につきましては、学習した内容が一体どことどうつながっていくのかを一望し

ていく、これを関連づけていくその作業を通して指導者も自覚的にその内容を捉えることがで

きると考えております。また、どの教科とどの教科とどの知識が結びついていくのかということに

ついて、学習者についても意識させることができるものだと考えております。

　この**ＥＳＤカレンダー**に**つきましては、カリキュラム・マネジメントの１つの手法として大変有効**

**であるという認識を持っております**ので、学校にも紹介してまいりたいと考えております。

**高田　浩議員**　各教員は新学習指導要領を読んでいると思われますか。

**佐後佳親学校教育部長**　当然読んでいると認識しております。

**高田　浩議員**　一部は読んでいるかもしれませんが、前文がついたことの意味などは理解して

いないかもしれませんので、それは繰り返し促していただければと思います。

2019年12月議会一般質問より

**高田　浩議員**　私は、９月定例会議で**ＥＳＤカレンダー**の導入を勧めました。ＥＳＤカレンダー

は、東京都江東区立**八名川小学校の前校長**らが中心となって開発されました。この小学校

は、第１回ジャパンＳＤＧｓアワードでパートナーシップ賞を受賞しています。ＥＳＤがＳＤＧｓの

推進に役立つことを理解した上でＥＳＤカレンダーの導入を進めていただきたいです。見解を

お尋ねいたします。

**佐後佳親学校教育部長**ＳＤＧｓとの関連づけはまだ十分ではございませんが、**ＥＳＤカレン**

**ダー**に類するものとして、環境教育全体計画を教科横断的に作成し、実践している学校がご

ざいます。

　今後につきましては、教育計画をＳＤＧｓに関連づけて作成することの意義について各学校

に周知してまいりたいと考えております。

2020年12月議会一般質問より

**高田　浩議員**　環境政策課が小学校で実施した環境教育出前授業の感想についてお尋ね

いたします。

　授業は、新学習指導要領にある主体的・対話的で深い学びそのものでした。これは2019年

12月議会一般質問における私の提案に基づいています。いかがでしょうか。

**佐藤弘幸学校教育部長**　小学校の授業ということですので、学校教育部からお答えをさせて

いただきます。環境政策課の職員の方をゲストティーチャーに迎えまして行われた地球温暖

化の環境学習講座につきましては、本年度は３つの小学校が希望しておりまして、既に２つの

学校が終了しております。両校とも４年生を対象に行われたものでしたけれども、児童からは、

クイズ形式等を使っていただいたりして分かりやすく楽しかったという感想がほとんどで、教員

からも子供の発達段階に合わせて授業をやっていただけたというようなお話で、特に温暖化

防止のために自分自身ができることを考えてカードに書いていくという取組に児童が大変興

味を持って取り組めたという報告を聞いております。子供たちが環境問題を身近なものと捉え

て学習ができる貴重な機会だったと考えております。

2021年2月議会一般質問より

**高田　浩議員**　教育長にお尋ねいたします。2017年３月に告示された新学習指導要領は、

小学校では2020年度から全面実施、中学校では2021年度から全面実施です。なぜ2019

年３月末に令和元年度教育指導の重点などで、ＥＳＤを小・中学校に伝えることができなかっ

たのでしょうか。

　文部科学省国際統括官付専門官は、2018年８月16日、厚木市教育委員会に来てくださっ

て、持続可能な開発のための教育についてレクチャーをしてくださいました。これは危機管理

課の課長と職員と私が文部科学省に行ったことがきっかけであります。私は、2018年９月定例

会議で、新学習指導要領に前文がついた重みと、キーワードは持続可能な社会のためのつく

り手であることを述べました。見解をお尋ねいたします。

**佐藤弘幸学校教育部長**　まず１点お答えをさせていただきますけれども、ＥＳＤに関することと

いたしまして、レクチャー以降、学校では環境教育の推進という形では進んできていると認識

をしております。さらに、そこから環境教育全体計画の作成ですとか、そういったものにつなが

っていっている学校が増えているという現状でございます。また、教育委員会といたしまして

も、全面実施に向けて、ＥＳＤ導入の前提となるまず新しい学習指導要領の理解を深める研

修というのをやってまいりました。ただ、今年度はコロナ感染対策ということで研修を進めること

ができなかったという状況がございます。１年、中学校で遅くなってしまいましたけれども、この

ことに取り組む糸口といたしましては、そのＥＳＤが一つの大きなきっかけになると考えておりま

すし、学習指導要領の全面実施が追い風になるとも考えております。

　現在は、その進み方がＥＳＤイコール環境というふうに捉えがちな部分がございますので、今

後、それぞれの学校の特色、強みからアプローチをする視点を伝えていくということで、全面

実施の準備はしておったのですけれども、具体的にＥＳＤの取組としましては、そういった解

釈、ＥＳＤイコール環境ではないよという部分も含めまして取組を進めてまいりたいと考えてお

ります。

**「ＥＳＤ・ＳＤＧｓ推進研究室」　手島利夫**

URL=https://www.esd-tejima.com/

　　 　　　　　　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

　　　　　　　　 ☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

　　　 Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com



【参考】

ＥＳＤＧｓ通信：手島利夫が名刺交換させていただいた方に配信している不定期なメ

ルマガで、約１９００名様に配信中です。 contact@esdtejima.com　にメールで

ご連絡いただければ、登録・及び削除をいたします。よろしくお願いいたします。